

②Museum Karmawibhangga Borobudur

人文社会科学部 2 年

この博物館は、ボロブドゥール寺院の歴史、修復、考古学的発見を紹介する施設として建てられた。博物館の建物は伝統的なジャワの建築様式のジョグロ様式であり、広いペンドポという屋根と柱だけで構成された四方が開放的な建物になっている。

修復作業の過程で取り外された石材や寺院に組み込めなかった彫刻片、復元事業に関する文献資料等が展示されている。

この博物館は、ユネスコの大規模修復を後世に伝えるものとしての役割を果たしている。



ジャワのヒンドゥー教の代表的なものとして、ドゥルガー、ナンディが展示されていた。



1985 年、イスラム過激派グループとされるテロリストが寺院のストゥーパを破壊。この頃寺院の警備は厳しくなく、誰でも入れる状態だった。人的被害はなく、ユネスコとインド

ネシア政府が修復し現在は元に戻っている。



殺虫剤等の石材を保護するための化学薬品も展示されていた。虫やカビ、きのこなどの影響で石材が傷んでしまうため、これらの化学製品で防虫や抗菌をする必要がある。



1975～1982 年のボロブドゥール大規模修復の縮小模型。石にはそれぞれ番号が付けられており、パズルのように組み合わせて元に戻せるようにした。



2010 年のメラピ山の噴火により、ボロブドゥールも影響を受けた。
白い灰が 5cm ほど積もり、焼かれた家や負傷者が多数であったと説明を受けた。
遺跡が被害を受けた様子や清掃作業をしている写真などが展示されていた。



碑文を刻んだリングが展示されていた。カウィ文字(昔のジャワ文字)で王の名前や祈りが彫られている。

8～9 世紀頃の中部ジャワにおいて、北側が仏教の王国(シャイレンドラ王朝)、南側がヒンドゥー教の王国(サンジャヤ王朝)であった。Lingga Bertulis はそれらの境界周辺で出土し、当時の信仰や権力の境界を示すと考えられる。



未完成の仏像がボロブドゥール最大のストウパの内部から発見され、博物館に移された。腕や肩に彫刻が中断されている様子が見られる。なぜ中断されたのかは不明。元の場所に置いたままでは悪天候によって傷ついてしまう可能性があるが、博物館にあれば掃除や保存がしやすい。



まとめ

寺院そのものの見学だけでは分からないような、修復や保護などに関する展示がたくさんあった。寺院見学では現状を詳しく見ることができるが、博物館では歩んできた歴史や修復のための道具などを間近で見ることができ、理解を深めるためにとても良いと感じた。